社会資本総合整備計画

大田市都市再生整備計画（大田市駅周辺地区）

島根県大田市

当初：令和5年3月
第1回変更：令和8年3月
第2回変更：令和8年3月

社会資本総合整備計画　　社会資本整備総合交付金

令和08年08月19日

計画の名称	大田市都市再生整備計画（大田市駅周辺地区）												
計画の期間	令和０５年度　～　令和０９年度　(5年間)									重点配分対象の該当			
交付対象	大田市												
計画の目標	本市では、人口減少と少子高齢化が進み、商業機能の低下、空地・空家・空き店舗の増加も相まって、まちなかの活力の低下が見られる。このような状況の中、医療・福祉施設、商業施設や住居等が拠点にまとまって立地し、高齢者をはじめとする住民が公共交通によりこれらの生活利便施設等に歩いてアクセスしやすくなる等、福祉や交通等を含めた都市全体の構造を抜本的に見直し、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを行う。また、公的不動産を活用して、福祉施設・子育て施設や行政施設を中心市街地に集約することにより、中心市街地を訪れる人を増やす。さらに、大田市駅周辺の一部を「滞在快適性等向上区域」に位置づけ、都市計画道路の美装化や広場、歩道空間の整備により、歩いていて安全で、楽しみと刺激のある市街地形成を図る。												

全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）	532	A	532	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		（R3当初）		（R10末）
1	都市再生整備計画区域内の人口密度			
	都市再生整備計画区域内の人口密度（住民基本台帳） 土地区画整理事業や駅前広場整備により安全で快適な居住空間を形成し中心市街地への居住を誘導することにより、人口密度の低下を抑制し現状維持を図る。	37人/ha	人/ha	37人/ha
2	駅前通り歩行者・自転車交通量			
	大田市駅通り線の駅前広場側起点における、歩行者・自転車交通量。平日12時間（朝7時～夕7時）双方交通量（歩行者、自転車、車椅子・シルバーカー合計） 大田市駅通り線の歩車共存道路整備や中心市街地活性化長期計画の沿道店舗等整備や路上空間の活用等の取り組みを組み合わせ、歩いていて快適で楽しい商店街を形成する。	1264人/日	人/日	1380人/日
3	JR大田市駅の乗降者数			
	事業者調査 駅前広場の整備や駅周辺のハード整備による居住人口、交流人口の増加を図り、JR大田市駅の利用を促進する。	928人/日	人/日	950人/日
4	空家等の対策済み件数			
	都市再生整備計画区域内における空き家バンク成約数（H19から）及び危険家屋解体実績（R1から） 駅通りの活性化により周辺の空き家等の購買意欲を高めることで、空き家や危険家屋の対策件数を増やし、災害に強く安全で快適な都市を目指す。	12件(累計)	件(累計)	20件(累計)

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

案件番号：　0000776057

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別１	種別２	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市区町村名／港湾・地区名	事業実施期間（年度） R05	R06	R07	R08	R09	全体事業費（百万円）	費用便益比	個別施設計画策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	大田市	直接	大田市	－	－	大田市都市再生整備計画（大田市駅周辺地区）	道路,地域生活基盤施設等 A=27.6ha	大田市	■	■	■	■	■	532		－
											小計						532		
											合計						532		

案件番号： 0000776057

交付金の執行状況

（単位：百万円）

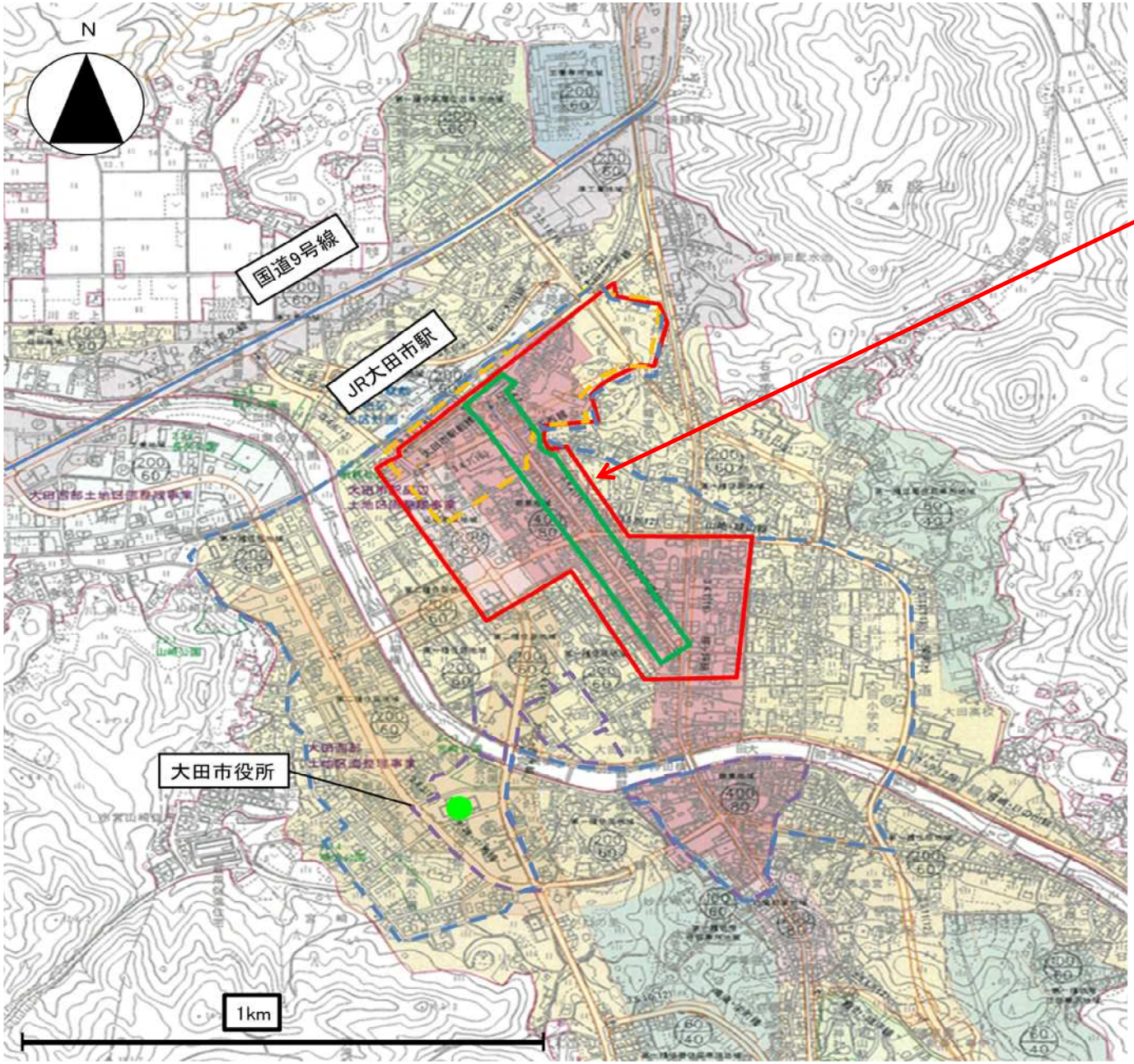
	R05	R06	R07		
配分額（a）	18	13	23		
計画別流用増△減額（b）	0	0	0		
交付額（c=a+b）	18	13	23		
前年度からの繰越額（d）	0	13	11		
支払済額（e）	5	15	20		
翌年度繰越額（f）	13	11	14		
うち未契約繰越額(g)	0	0	0		
不用額（h = c+d-e-f）	0	0	0		
未契約繰越率+不用率（i = (g+h)/(c+d))%	0	0	0		
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

案件番号： 0000776057

別紙5－1

参考図面（社会資本整備総合交付金）

計画の名称	大田市都市再生整備計画（大田市駅周辺地区）		
計画の期間	令和5年度　～　令和10年度　（6年間）	交付対象	大田市



A-1
都市再生整備計画区域
大田市駅周辺地区
（道路，地域生活基盤施設等
A=27.6ha）

- 都市再生整備計画区域（27.6ha）
- 滞在快適性等向上区域（4.7ha）
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域

- 都市計画区域
- 用途地域界
- 第一種低層住居専用地域
- 第一種中高層住居専用地域
- 第一種住居地域
- 第二種住居地域
- 近隣商業地域
- 商業地域
- 準工業地域
- 工業地域
- 工業専用地域

社会資本整備総合交付金チェックシート

（都市再生整備計画事業等タイプ）

社会資本総合整備計画

都道府県名：島根県大田市

	チェック欄
Ⅰ．目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1）まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2）上位計画等との整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応（地域の課題と整備計画の目標の整合性）	
1）地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2）まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い。	○
Ⅱ．計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性	
1）目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2）指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3）目標及び事業内容と計画区域の整合性が確保されている。	○
4）指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5）地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1）十分な事業効果が確認されている。	○
2）事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
Ⅲ．計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1）まちづくりに向けた機運がある。	○
2）住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3）継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1）計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2）交付期間中の計画管理（モニタリング）を実施する予定である。	○
3）計画について住民等との間で合意が形成されている。	○

都市再生整備計画

大田市駅周辺地区（第3回変更）

島根県　大田市

令和5年3月	当初
令和6年3月	第1回変更
令和8年3月	第2回変更
令和8年3月	第3回変更

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	■
都市再生整備計画事業（社会資本整備総合交付金）	□
都市再生整備計画事業（防災・安全交付金）	□
まちなかウォーカブル推進事業	■

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式（1）-②

都道府県名	島根県	市町村名	大田市	地区名	大田市駅周辺地区	面積	27.6 ha

計画期間	令和 5 年度 ～ 令和 10 年度	交付期間	令和 5 年度 ～ 令和 10 年度

目標

大目標：「連携と交流によるだれもが住みよい都市づくり」

目標1：県央都市・大田市の玄関口として魅力あるコンパクトな中心市街地形成を図り、利便性が高く、歩いて楽しい都市を目指す。

目標2：子どもから高齢者まで安全・安心できるよう、生活者の視点から、ユニバーサルデザインによる住環境の整備を図るとともに、自然災害に強い地域づくりを行い安全で快適な都市を目指す。

目標3：地域固有の歴史文化を活用し、中心市街地に賑わいのある都市を目指す。

目標設定の根拠

都市全体の再編方針（都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の考え方を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針）

本市では、人口減少と少子高齢化が進み、商業機能の低下、空地・空家・空き店舗の増加も相まって、まちなかの活力の低下が見られる。このような状況の中、医療・福祉施設、商業施設や住居等が拠点にまとまって立地し、高齢者をはじめとする住民が公共交通によりこれらの生活利便施設等に歩いてアクセスしやすくなる等、福祉や交通等を含めた都市全体の構造を抜本的に見直し、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを行う。また、公的不動産を活用して、福祉施設・子育て施設や行政施設を中心市街地に集約することにより、中心市街地を訪れる人を増やす。さらに、大田市駅周辺の一部を「滞在快適性等向上区域」に位置づけ、都市計画道路の美装化や広場、歩道空間の整備により、歩いていて安全で、楽しみと刺激のある市街地形成を図る。

まちづくりの経緯及び現況

【歴史的背景】

●本市の中心市街地は古くから、橋南地区に集落が形成されていた。昭和29年には、大田市役所・警察署・税務署・大田商工会・商店等の集積が見られ、中心市街地の核としての役割を担っていた。三瓶川北側の市街地は、大正10年の石見大田駅（現大田市駅）の開業を契機に整備が進められ、令和3年時点で100年を迎える。歴史的・伝統的・文化的行事として、400年近くの歴史を持つ「彼岸市（中日つぁん）」が継承されており、出雲大社、松江の武内神社の例祭と共に年間行事に組み込まれており、毎回5万人前後の人出で賑わっている。

【地区の現況】

●本市の中心市街地は、これまで様々な都市機能が集積し、新たな経済活動を生み出す場や、地域コミュニティの中心として重要な役割を担ってきた「街の顔」であった。しかしながら、近年では、モータリゼーションの進展、消費者の買い物パターンの変化、中核商業施設の閉鎖、大型商業施設の郊外立地を背景として中心市街地の居住人口の減少、商店街の空き店舗の増加による活力の低下が見られ、空洞化が深刻化している。

【まちづくりの変遷】

●平成8年から大田市駅西側区域において土地区画整理事業を実施し平成18年に完了した。

●平成23年度、「大田市駅周辺東側まちづくり事業」として、地域住民、関係機関、関係団体と協働による新たなまちづくりを考えるワーキンググループを組織化し、東側区域を含めた検討区域における道路事業、沿道区画整理事業等を含めた東側地区の基盤整備についての検討を経て、平成24年度、「大田市駅周辺東側地区まちづくり計画」を取りまとめた。

●平成30年度、中心市街地活性化協議会を設立し行政と住民や民間事業者が一体となり、中心市街地活性化長期計画の策定に向けた取組みを開始した。また、「コンパクトなまちづくり」を推進するために、居住や都市機能を誘導すべき区域を設定し、区域内の誘導施策等を定めることで、都市機能（商業、医療、公共施設等）の維持や住みよい市街地形成に向けた立地適正化計画を策定した。

●令和3年度に大田市駅前周辺東側土地区画整理事業、都市計画道路の都市計画変更を行った。

【他計画との整合】

●上位計画である第2次大田市総合計画、都市計画マスタープラン、立地適正化計画において中心市街地の方向性、取り組みが位置付けられている。特に立地適正化計画では、居住誘導区域、都市機能誘導区域の指定により、中心市街地に直接関連する施策を位置付けており、都市計画マスタープランと両輪で市街地形成を強力に進めることができる。

課題

・近隣郊外における大型店の出店、駅前大型商店施設（共同店舗）の閉鎖、特に商店街における空家・空き店舗の増加、低未利用地の増加が見られる。さらに人口集中地区の指定がなくなり、過去10年で本市の人口の約13%が減少しており、今後も更なる空洞化が進むことが懸念される。（2012年1月：38,406人、2022年1月：33,243人、住民基本台帳より）

・大田市駅前商店街は、彼岸市等の地域文化の中心地であるが、空家・空き店舗が増加し、賑わい活力が低下している。

・大田市駅前東側は古い住宅が煩雑に密集しており、生活道路も狭いことから、防災面の向上及び生活環境の改善が求められる。

・大田市駅前街区の地価は中心市街地のなかで最も高いが、店舗・事務所兼共同住宅では2014年の52,000円/㎡から、2019年には40,800円/㎡となり、21.5%の減少率となっている。また、近隣の住宅地においても地価は下落しており、2014年の30,200円/㎡から、2019年には27,100円となり10.3%の減少率となった。

将来ビジョン（中長期）

①大田市都市計画マスタープラン（2008-2027）（平成20年度策定）

・県央都市・大田市の玄関口として、魅力あるコンパクトな中心市街地形成を図る。

・大田市駅周辺の中心拠点では、県央に位置する大田市の中核にふさわしい魅力ある拠点とし、商業・業務・文化等の都市機能の充実を図るとともに、中心市街地の計画的な整備や安全・安心の住宅地整備等により、快適な居住環境の形成を図る。

・大田市駅周辺の計画的な市街地整備を行い、大田市の顔として魅力ある市街地形成を図る。

・中心市街地再生による賑わい景観の創出

・市街地は、既存商店街の再生を図るとともに、商業・業務系施設や中高層住宅等の立地を促進し、大田市駅周辺における中心市街地活性化に向けた都市機能の集積・誘導を図る。

②大田市立地適正化計画（2019-2038）（平成30年度策定）

・歩いて暮らせる環境、買物しやすい環境、皆が集える環境等を整備するとともに、まちなかの魅力を向上させ、生活利便性を周辺地域にも波及させる。

③大田市中心市街地活性化長期計画（2022-2032）（令和4年度策定）

・自家用車や公共交通で、中心市街地に訪れやすい都市基盤を維持・整備し、市民だけでなく、市外の来訪者（観光客・ビジネス客等）も来やすいまちをつくる。

・商業店舗等の魅力化や新たな商業機能の誘導により中心市街地に来る目的をつくり、歩いていて楽しみと刺激のある市街地を形成し、賑わいを創出する。

・空家・空地・空き店舗といった低未利用地を活用し、住宅や都市機能で密度が高く、利便性と効率性を備えた市街地を形成する。

・生活に必要な都市機能が充実した本市の中枢として持続可能な中心市街地を形成するため、人口密度の高い市街地形成を図る。

都市構造再編集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

・中心市街地活性化長期計画では、「都市機能重点整備拠点」「公共施設連携・活用促進拠点」「橋南まちなか改善拠点」の3つの核を設定し、それぞれ都市機能誘導を図るとともに、3つの拠点を結ぶ地区内連携道路として、「駅通り再生地区」と「商業再生地区」を設定し、中心市街地の回遊性を高めるとともに、それぞれ個性を持った魅力的な市街地形成を図る。
・大田市駅前周辺東側土地区画整理事業により、駅周辺のポテンシャルを活かして、安全・安心で利便性の高い住宅地を整備する。
・立地適正化計画において都市機能誘導区域に指定している駅前賑わい地区に、福祉施設・子育て支援施設、複合公共施設を配置し、中心市街地の関係人口の維持や、賑わいの創出、利便性の向上を図る。
・地域固有の歴史文化や商業の中心である大田市駅通り線は、子育て世代や高齢者等が歩いて楽しめる空間とするとともに憩いの場となる広場整備により、賑わいのある魅力的な都市づくりを進める。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方　※誘導施設を整備する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

・既存の点在する福祉施設・子育て支援施設を統合し整備することにより、幼保連携による子育て支援のワンストップ化、利便性の向上による子育て世代への支援機能の拡充を図り、子育て世代の中心市街地への来訪や定住を促進する。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

・大田市駅前周辺東側土地区画整理事業
・公共下水道事業
・複合公共施設整備

一体型滞在快適性等向上事業及びまちなかウォーカブル推進事業の計画

滞在快適性等向上区域の考え方

大田市駅より南側の大田停車場線、及び大田市駅通り線の約800mを目安に滞在快適性等向上区域を設定し、歩車共存道路を整備することに安全且つ快適に歩ける空間を確保するとともに、沿道に広場を整備し、歩いて楽しく、賑わいのあるまちなかを創出する。

滞在快適性等向上区域での取組

滞在快適性向上区域の道路において、歩車共存道路の整備、電線類の地中化、舗装、植樹ます、照明の高質化整備を行うことにより、快適な歩行者空間を創出するとともに、オープンテラスとして道路空間を活用することにより、歩行者等にくつろぎの空間を提供する。
また、道路沿道に広場を整備することにより、道路空間と一体となった賑わい空間を創出する。

目標を定量化する指標

指　標	単 位	定　義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
都市再生整備計画区域内の人口密度	人/ha	都市再生整備計画区域内の人口密度（住民基本台帳）	土地区画整理事業や駅前広場整備により安全で快適な居住空間を形成し中心市街地への居住を誘導することにより、人口密度の低下を抑制し現状維持を図る。	37人/ha	R3年度	37人/ha	R10年度
駅前通り歩行者・自転車交通量	人/日	大田市駅通り線の駅前広場側起点における、歩行者・自転車交通量。平日12時間（朝7時～夕7時）双方交通量（歩行者、自転車、車椅子・シルバーカー合計）。	大田市駅通り線の歩車共存道路整備や中心市街地活性化長期計画の沿道店舗等整備や路上空間の活用等の取り組みを組み合わせ、歩いていて快適で楽しい商店街を形成する。	1,264人/日	R3年度	1,380人/日	R10年度
JR大田市駅の乗降者数	人/日	事業者調査	駅前広場の整備や駅周辺のハード整備による居住人口、交流人口の増加を図り、JR大田市駅の利用を促進する。	928人/日	R1年度	950人/日	R10年度
空家等の対策済み件数	件	都市再生整備計画区域内における空き家バンク成約数（H19から）及び危険家屋解体実績（R1から）	駅通りの活性化により周辺の空き家等の購買意欲を高めることで、空き家や危険家屋の対策件数を増やし、災害に強く安全で快適な都市を目指す。	累計12件	R3年度	累計20件	R10年度

都市再生整備計画の整備方針等

様式（1）-③

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
【利便性が高く安全快適な市街地の再構築によりあらゆる年齢層の居住を誘導する】 ・土地区画整理事業による都市計画道路や公園の整備により、利便性が高く、安全・快適な市街地を整備するとともに、駅前広場の整備により、大田市駅の交通結節機能の向上を図り、利便性が高い市の玄関口を整備する。	●都市構造再編集中支援事業 【基幹事業】 ・道路：区画道路（排水路、舗装、境界ブロック） ・道路：区画道路（電線共同溝） ・道路：駅通り大沢1号線（排水路、舗装） ・公園：街区公園（施設整備） ・高質空間形成施設：JR大田市駅前広場（バス乗車場整備） ●まちなかウォーカブル推進事業 【基幹事業】 ・道路：JR大田市駅前広場（電線共同溝） ・道路：JR大田市駅前広場（駅前広場整備） 【関連事業】 ・大田市駅前周辺東側土地区画整理事業
【利用しやすく快適な道路・広場整備により歩いて楽しめる商店街を整備する】 ・歩行者が安全に通行しやすく、沿道店舗等に出入りしやすい道路整備（歩車共存化、電線地中化、舗装美装化、照明整備）を行うとともに、憩いの場、イベントの場となる広場を整備し、居心地が良く歩いて楽しめる商店街形成を図る。 ・大田市駅通り線でイベント実施や社会実験に官民連携で取り組み、地域住民や観光客等の来訪者が歩きたくなるウォーカブルなまちづくりを進める。	●まちなかウォーカブル推進事業 【基幹事業】 ・道路：大田市駅通り線（電線共同溝） ・道路：大田市駅通り線（歩車共存道路整備） ・地域生活基盤施設：駅通り中央広場整備（広場） 【提案事業】 ・「オープンテラス」社会実験
【都市機能をコンパクトに集積し、関係・交流人口の拡大を図る】 ・土地区画整理事業により再整備される大田市駅前に福祉施設・子育て支援施設や複合公共施設整備を整備することにより、関係・交流人口の拡大を図る。さらに、大田市駅通り線の整備と併せて商店街に誘客を図り、賑わいのある商店街形成を図る。	●都市構造再編集中支援事業 【基幹事業】 ・誘導施設（社会福祉施設）：認定こども園・子育て支援センター複合施設整備 ・誘導施設（教育文化施設）：認定こども園・子育て支援センター複合施設整備 ・誘導施設（元地の管理の適正化）：認定こども園統合前施設除却 【関連事業】 複合公共施設整備

その他
【継続的なまちづくり活動】 ・沿道店舗出店支援 ・集客イベントの実施 ・まちなか多言語対応 ・Wifi整備 ・繁盛店づくり支援（個店の魅力化） ・まちづくり団体・NPO団体との連携の強化

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項（都市構造再編集中支援事業）

様式（1）-④-1

交付対象事業費	2,716	交付限度額	1,358.0	国費率	0.5

（金額の単位は百万円）

基幹事業

事業 / 細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	費用便益比 B／C
道路	区画道路（排水路、舗装、境界ブロック）	大田市	直	946m(9本)	R5	R8	R5	R8	326	326	326		326	－
	区画道路（電線共同溝）	大田市	直	726m	R5	R7	R5	R7	292	292	292		292	－
	駅通り大沢1号線（排水路、舗装）	大田市	直	57m	R5	R5	R5	R5	6	6	6		6	－
公園	街区公園（施設整備）	大田市	直	2箇所	R7	R9	R7	R9	74	74	74		74	－
古都保存・緑地保全等事業														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム														
地域生活基盤施設														
高質空間形成施設														
	JR大田市駅前広場（バス乗車場整備）	大田市	直	163m	R8	R8	R8	R8	25	25	25		25	－
高次都市施設 地域交流センター														
観光交流センター														
テレワーク拠点施設														
子育て世代活動支援センター														
複合交通センター														
誘導施設 医療施設														
社会福祉施設	認定こども園・子育て支援センター複合施設整備	大田市	直	6142㎡（5458㎡）	R7	R10	R7	R10	1,630	1,226	1,226		1,226	1.35
教育文化施設	認定こども園・子育て支援センター複合施設整備	大田市	直	3243㎡（2657㎡）	R7	R10	R7	R10	897	643	643		643	－
元地の管理の適正化	認定こども園統合前施設除却	大田市	直	1341㎡	R8	R9	R8	R9	120	120	120		120	－
基幹的誘導施設														
既存建造物活用事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
バリアフリー環境整備事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業														
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
復興促進事業														
エリア価値向上整備事業														
合計									3,370	2,712	2,712	0	2,712	1.35 …A

提案事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	
地域創造支援事業															
事業活用調査		都市再生整備計画事業効果検討調査	大田市	直		R10	R10	R10	R10	4	4			4	
まちづくり活動推進事業															
合計										4	4	0	0	4	…B

居住誘導促進事業

事業	事業箇所名	事業主体	直／間		（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	
居住誘導促進事業														
合計									0	0	0	0	0	…C
												合計(A+B+C)	2,716	

（参考）都市構造再編集中支援事業関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	（いずれかに○） 直轄	補助	地方単独	民間単独	事業期間 開始年度	終了年度	全体事業費
合計											0

（参考）関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	（いずれかに○） 直轄	補助	地方単独	民間	事業期間 開始年度	終了年度	全体事業費
土地区画整理事業	大田市駅前周辺東側	大田市	国土交通省	56432㎡		○			R3	R10	5,300
公共下水道事業		大田市							R5	R9	
複合公共施設整備		大田市							R5	R9	
合計											5,300

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項（まちなかウォーカブル推進事業）

様式（1）-④-3

交付対象事業費	532	交付限度額	266.0	国費率	0.5

（金額の単位は百万円）

基幹事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	費用便益比 B／C
道路		JR大田市駅前広場（電線共同溝）	大田市	直	37m	R7	R8	R7	R8	27	27	27		27	－
		JR大田市駅前広場（駅前広場整備）	大田市	直	2500㎡	R5	R8	R5	R8	137	137	137		137	－
		大田市駅通り線（電線共同溝）	大田市	直	560m（230m）	R6	R12	R6	R9	406	184	184		184	－
		大田市駅通り線（歩車共存道路整備）	大田市	直	560m（230m）	R5	R12	R5	R9	203	106	106		106	－
公園															
駐車場有効利用システム															
地域生活基盤施設		駅通り中央広場整備（広場）	大田市	直	760㎡	R6	R9	R6	R9	71	71	71		71	－
高質空間形成施設															
既存建造物活用事業															
土地区画整理事業															
市街地再開発事業															
バリアフリー環境整備促進事業															
街なみ環境整備事業															
エリア価値向上整備事業															
滞在環境整備事業															
計画策定支援事業															
合計										844	525	525	0	525	…A

提案事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	
地域創造支援事業															
事業活用調査		都市再生整備計画事業効果検討調査	大田市	直		R10	R12	R10	R10	6	1			1	
まちづくり活動推進事業		「オープンテラス」社会実験	大田市	直		R10	R9	R10	R10	3	3			3	
		まちづくり活動支援	大田市	直		R6	R7	R6	R7	3	3			3	
合計										12	7	0	0	7	…B
													合計(A+B)	532	

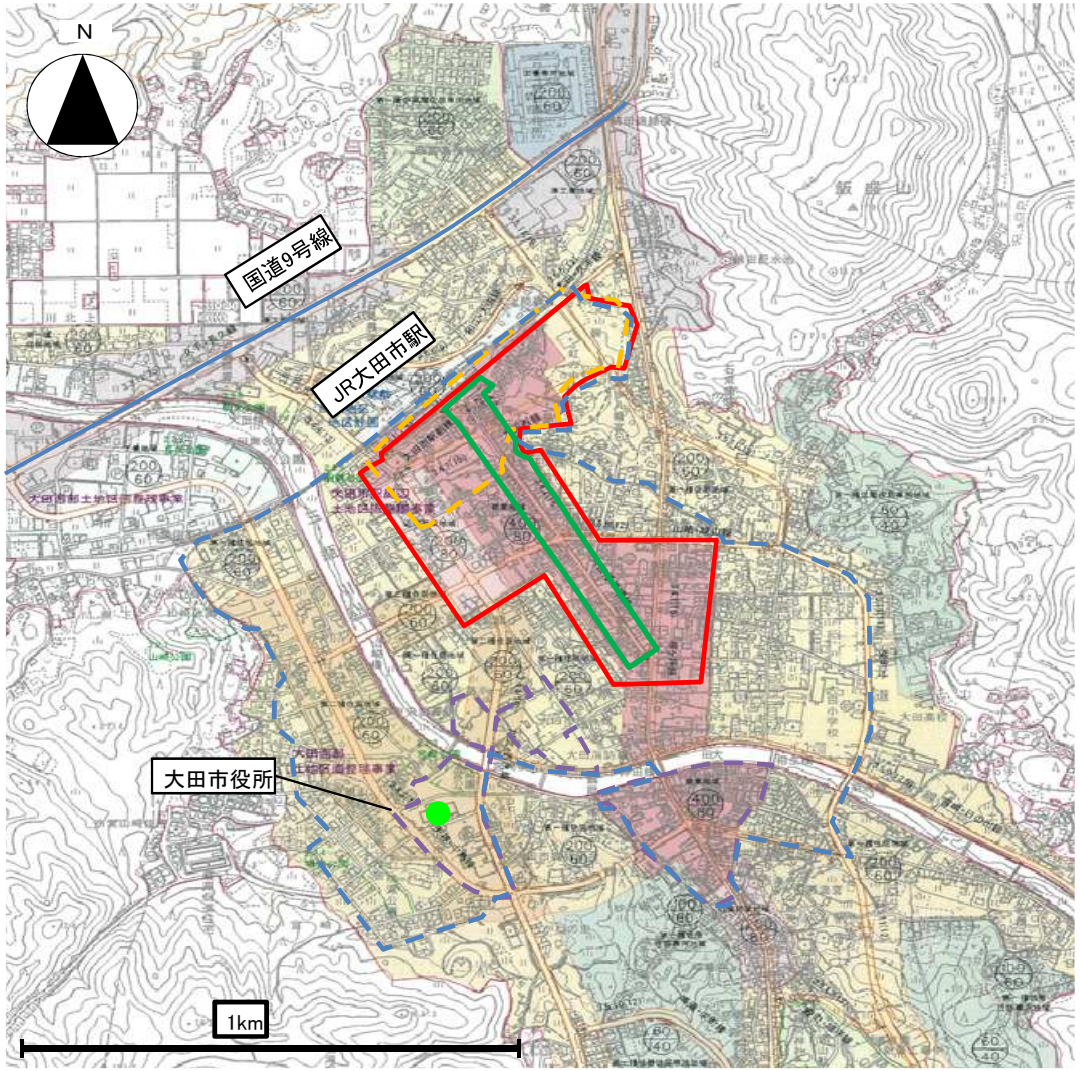
（参考）関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	（いずれかに○） 直轄	補助	地方単独	民間	事業期間 開始年度	終了年度	全体事業費
土地区画整理事業	大田市駅前周辺東側	大田市	国土交通省	56432㎡		○			R3	R10	5,300
下水道整備事業		大田市							R5	R9	
合計											5,300

都市再生整備計画の区域

様式(1)-⑥

大田市駅周辺地区(島根県大田市)	面積	27.6(4.7)　ha	区域	大田市大田町の一部



都市再生整備計画区域(27.6ha

滞在快適性等向上区域(4.7ha)

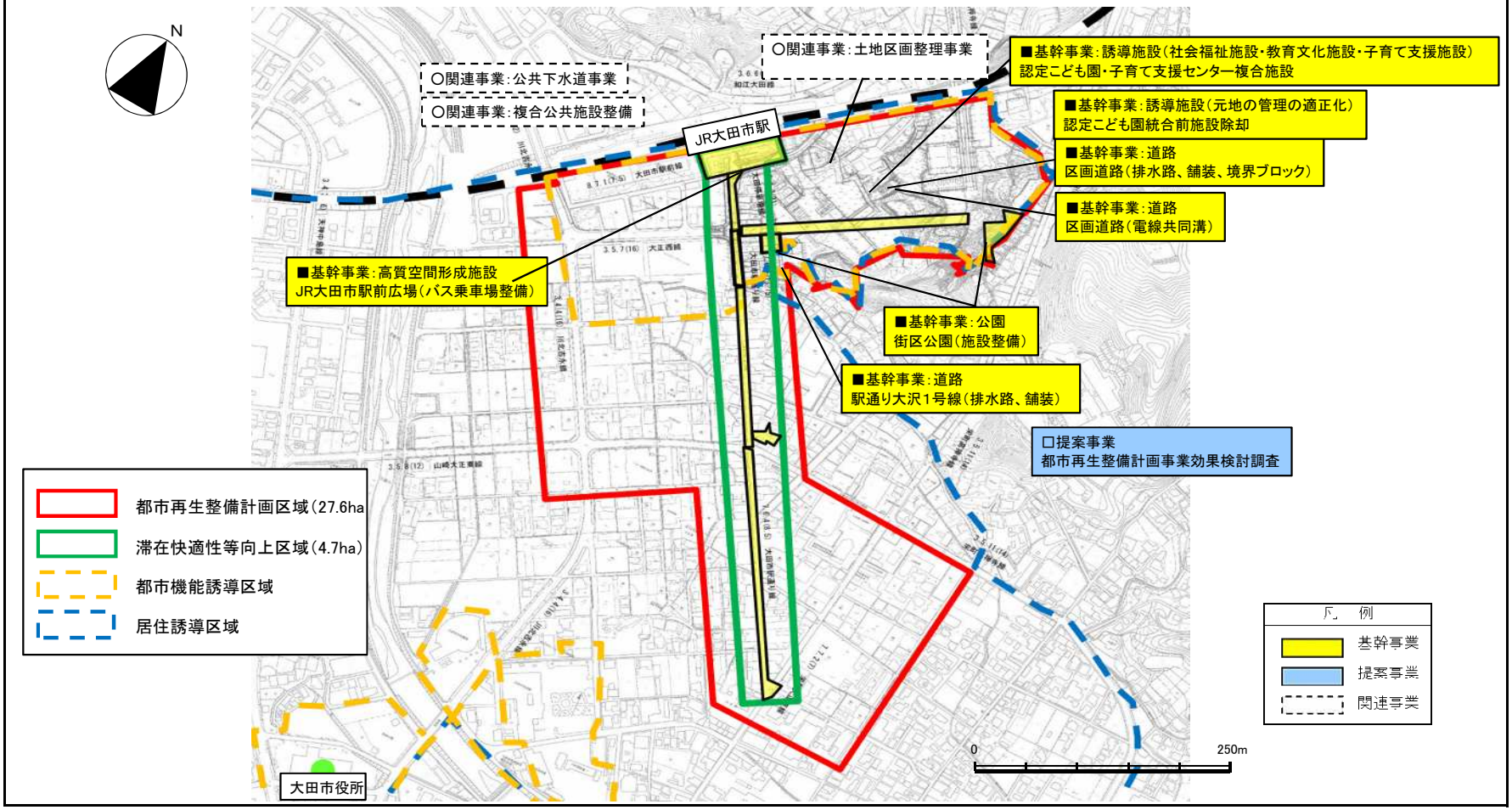
都市機能誘導区域

居住誘導区域

	都市計画区域
	用途地域界
	第一種低層住居専用地域
	第一種中高層住居専用地域
	第一種住居地域
	第二種住居地域
	近隣商業地域
	商業地域
	準工業地域
	工業地域
	工業専用地域

大田市駅周辺地区(島根県大田市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	大目標:「連携と交流によるだれもが住みよい都市づくり」 目標1:県央都市・大田市の玄関口として魅力あるコンパクトな中心市街地形成を図り、利便性が高く、歩いて楽しい都市を目指す。 目標2:子どもから高齢者まで安全・安心できるよう、生活者の視点から、ユニバーサルデザインによる住環境の整備を図るとともに、自然災害に強い地域づくりを行い安全で快適な都市を目指す。 目標3:地域固有の歴史文化を活用し、中心市街地に賑わいのある都市を目指す。	代表的な指標	都市再生整備計画区域内の人口密度	(人/ha)	37人/ha	(R3年度)	→	37人/ha	(R10年度)
			駅前通り歩行者・自転車交通量	(人/日)	1,264人/日	(R3年度)	→	1,380人/日	(R10年度)
			JR大田市駅の乗降者数	(人/日)	928人/日	(R1年度)	→	950人/日	(R10年度)
			空家等の対策済み件数	(件)	累計12件	(R3年度)	→	累計20件	(R10年度)



大田市駅周辺地区(島根県大田市) 整備方針概要図(まちなかウォーカブル推進事業)

目標	大目標:「連携と交流によるだれもが住みよい都市づくり」 目標1:県央都市・大田市の玄関口として魅力あるコンパクトな中心市街地形成を図り、利便性が高く、歩いて楽しい都市を目指す。 目標2:子どもから高齢者まで安全・安心できるよう、生活者の視点から、ユニバーサルデザインによる住環境の整備を図るとともに、自然災害に強い地域づくりを行い安全で快適な都市を目指す。 目標3:地域固有の歴史文化を活用し、中心市街地に賑わいのある都市を目指す。	代表的な指標	都市再生整備計画区域内の人口密度	(人/ha)	37人/ha	(R3年度)	→	37人/ha	(R10年度)
			駅前通り歩行者・自転車交通量	(人/日)	1,264人/日	(R3年度)	→	1,380人/日	(R10年度)
			JR大田市駅の乗降者数	(人/日)	928人/日	(R1年度)	→	950人/日	(R10年度)
			空家等の対策済み件数	(件)	累計12件	(R3年度)	→	累計20件	(R10年度)

